

仙台駅 杜の都コンサート

仙台駅
2階スタンドグラス前
入場無料



指揮、お話し
池辺晋一郎

©東京オペラシティ文化財団
撮影：武藤草

1943年生。1967年東京芸術大学卒。1971年同大学院修了。池内友次郎、矢代秋雄、三善晃の諸氏に師事。1966年日本音楽コンクール第1位。これまでに音楽之友社賞、尾高賞3度、ザルツブルクTVオペラ祭優秀賞、イタリア放送協会賞3度、毎日映画コンクール音楽賞3度、日本アカデミー賞優秀音楽賞9度、放送文化賞等を受賞。2004年紫綬褒章を受章。作品：交響曲10曲、ピアノ協奏曲3曲、チェロ協奏曲、オペラ「死神」「鹿鳴館」「高野聖」他管弦楽曲、室内楽曲、合唱曲等多数。映画「影武者」「榎山節考」「うなぎ」「スパイ・ゾルゲ」「劔岳・点の記」「春を背負って」他。TV「独眼竜政宗」「元禄繚乱」他。約500本の演劇の音楽を担当。著書「空を見てくださいか1～7」「耳の渚」「モーツァルトの音符たち」他。2009年3月まで13年間NHK-TV「N響アワー」レギュラー出演。横浜みなとみらいホール館長、東京オペラシティ・ミュージックディレクター、石川県立音楽堂洋楽監督。



仙台フィルハーモニー管弦楽団

仙台フィルは、1973年に「宮城フィルハーモニー管弦楽団」として誕生。1983年4月から芥川也寸志が音楽総監督として現在の礎を築き、外山雄三音楽監督、パスカル・ヴェロ常任指揮者のもとアンサンブルに磨きをかけてきた。2018年度からは飯守泰次郎が常任指揮者に就任し、さらに音楽的深化を推し進めていく。2011年3月11日に東北地方を襲った東日本大震災による影響で、仙台フィルは数ヶ月にわたり演奏活動を中止せざるを得ない状況となったが、「音楽の力による復興センター・東北」と協力し音楽を被災者のもとに届けながら絆をつなぐ活動を行った。現在、日立システムズホール仙台コンサートホールでの「定期演奏会」のほか、「仙台国際音楽コンクール」「仙台クラシックフェスティバル(せんくら)」でも広く市民に親しまれ、「杜の都」の音楽文化における中心的役割を担っている。

●ソリスト

6月1日(金) ● ショスタコーヴィチ：ピアノ協奏曲第1番～第1楽章



森岡正典
仙台フィル・トランペット首席奏者

6月2日(土) ● バッハ：ブランデンブルク協奏曲 第5番～第1楽章



神谷未穂
仙台フィル・コンサートマスター
写真©M.Pasternak



戸田 敦
仙台フィル・フルート首席奏者

● クープラン：王宮のコンセール



西沢澄博
仙台フィル・オーボエ首席奏者
写真©Masafumi Tamura



三宅 進
仙台フィル・チェロソロ首席奏者



指揮
松井慶太

1984年青森県八戸市生。3歳よりピアノ、15歳よりオーボエを学び、16歳のときピアニストとしてポーランド国立クラクフ交響楽団と共演。2007年、東京音楽大学指揮科卒業。指揮を広く上淳一、汐澤安彦、ピアノを島田玲子、宮原節子、オーボエを安原理喜、音楽理論を久田典子に師事。2006年、韓国で行われたアジア・フィルハーモニック・オーケストラにて指揮をチョン・ミョンファンに師事。

2009年、第15回東京国際音楽コンクール入賞・奨励賞受賞。2011年より東京混声合唱団コンダクター・イン・レジデンス。国内では東京シティ・フィル、日フィル、オーケストラ・アンサンブル金沢、大阪響、九響、京響、群響、セントラル愛知響、仙フィル、名フィル、山響等を指揮。2008～2014年には、N響定期演奏会にてデュワ、ミョンファン、ルイーザらのもとで合唱指揮を務め、公演を成功に導く。海外ではドナウ交響楽団(ブダペスト)、ブラハ交響楽団室内オーケストラを指揮し好評を博した。



ピアノ、チェンバロ
永野光太郎

〈ピアノ〉第2回オーストラリア国際ショパンピアノコンクールにおいて第1位、併せて聴衆賞を受賞。台北ショパン国際ピアノコンクールにおいて第1位、併せて台湾作品最優秀演奏特別賞を受賞。第2回ハリーナ・チェルニー＝ステファンスカ記念国際ピアノ・コンクールにおいて第2位、併せてショパンのノクターン賞を受賞。東京ピアノコンクール第1位。

〈チェンバロ〉J-city TOKYOチェンバロ プレジャー2014において第1位。2013年大阪国際音楽コンクールのチェンバロ部門で第3位。2014年第27回国際古楽コンクール(山梨)チェンバロ部門においてファイナリスト。

日本各地やキャンベラなどでチェンバロ・リサイタルを開催。シャネル・ビッグマリオン・ティズ10周年記念コンサートにて、ヴィヴァルディ「四季」の通奏低音を演奏した。横浜ジルベスターコンサート2016-2017では、テレマンの2台ヴァイオリンのための協奏曲の通奏低音を演奏した。

東日本鉄道文化財団主催の展覧会

企画展「進化・深感・新幹線」

常に進化を続けている日本の鉄道。その中でも特に大きな進化を遂げたのが新幹線です。その新幹線のあゆみをJR発足後30年間を中心にご紹介します。

2018年4月24日(火)～6月24日(日) 旧新橋停車場 鉄道歴史展示室 (JR新橋駅「銀座口」徒歩5分)

●開館時間：10:00～17:00(入館は閉館の15分前まで) ●入場料：無料 ●休館日：毎週月曜日(ただし月曜が祝日の場合は開館、翌火曜日が休館)

〒105-0021 東京都港区東新橋1-5-3 Tel.03-3572-1872 <http://www.ejrcf.or.jp/> 常設展|史跡の見学窓、出土品等の実物展示、鉄道や汐留の歴史を紹介する映像展示